

日本 防火・防災 協会長賞

1,800人の生徒を
「避難者」から「救助者」に
地域の方と住み分ける、
校内避難所運営にむけて

川崎市立川崎高等学校+大島地区連合町内会

【団体概要】

川崎高等学校は明治44年開校、昭和26年に現在地となり、川崎市の地域防災拠点と位置づけられ、平成26年新校舎の運用を開始した。敷地内には附属中学校と定時制、南部療育センターを併設し、教職員を含めると約1,800人が学ぶ教育施設である。

大島連合町内会とは、文化祭時の野菜販売、避難所開設訓練、学校教育運営会議、防災マップ作り、津波避難訓練等で住民と生徒が一体となって、災害対策に取り組んでいる。

【背景】

川崎高等学校は、市の地域防災拠点として位置付けられており、津波が来た際、校舎の3階以上であれば、浸水から免れる設計となっている。大島地区の方々の避難も想定され、避難所運営や連絡体制の確立などを検討していく場が必要となった。

【取組の内容】

東日本大震災での出来事、真心から行動する美しさを生徒に体感させるために始めた「高校生復興ボランティアバス」を実施、教員たちで持続可能な復興支援ができる環境を整え、平成25年から毎夏、生徒会リーダー研修会を行っている。

また、「小学校区ごとの防災マップ作り」を住民参加型で策定したことや、首都直下型地震を想定し校内宿泊等を体験する「防災宿泊研修会」の実施、秋季には大島地区連合会と連携し「避難所開設訓練」又は「様々な災害に対応した避難訓練」を行っている。

【成果】

毎年、高校、中学、定時制(昼・夜)、療育センター合同の避難訓練を行っており、生徒一人ひとりの意識が徐々に向上し、避難完了時間が短縮している。

大島地区連合町内会との避難訓練では、年々参加者が増え、避難所開設訓練へ取り組む意識が向上しており、学校と地域の互いに防災力の向上が図られた。



川崎高校外観



釜石復興東中引越し



川崎高校生徒会ボラ気仙沼清掃



防災宿泊カレー



選定委員Comment

川崎市立川崎高校の敷地内には、全日制と定時制の高校、附属中学校、療育センターがあり、教職員を合わせると約1800人が通う一大教育拠点である。その1800人が「避難者」でなく「救助者」になれば、地域防災に大きく貢献できるのではないかと。この壮大な目標に向けて、少しずつだが確実に歩んでいる印象を受けた。

同校は、東日本大震災以降、被災地でのボランティア活動や生徒会リーダー研修を続けているが、「支援」ではなく「人間として大切なことを学びに行く」というスタンスで生徒を送り出しているという。2014年に7階建ての立派な校舎に建て替わり、地域防災拠点に指定されたのを機に、教育・療育施設合同の避難訓練を行い、さらに周辺自治会とも連携を強めている。

周辺の大島地区は、多摩川と鶴見川に挟まれた水害リスクが高いエリアで、連合町内会では近隣スーパーと災害協定を結ぶなど、従前から防災コミュニティづくりに取り組んできた。高校の校舎が建て替わってからは避難所開設訓練を合同で行い、まち歩きを行った

上で防災マップを小学校区単位に再編したり、災害ボランティアセンター設置の図上訓練を行ったりしている。

そんな地域防災の取り組みに、とくに熱心に応じているのが福祉科の生徒たちである。2015年から毎年、帰宅困難を想定した校内防災宿泊研修実施して非常時の食事や寝具の工夫を学んでおり、途中の心肺蘇生等のプログラムには地域住民らも参加している。クロスロードを通じて、自分と異なる意見があることや臨機応変な対応の重要性を学ぶことは、将来の仕事に必ず役に立つだろう。校内には介護実習用の特殊浴槽やベッド、車椅子などもあり、福祉避難所としても立派に機能しそうだ。

住民の多くが頑丈な校舎を心強く思っているが、災害時に生徒と住民とがどう校舎内空間を棲み分けるかなど、今後、検討や取り決めが必要な部分は多々ある。引き続きの努力を期待したい。



- ▶ 設立年
平成23年3月
- ▶ 団体構成
約1,800名
- ▶ 所在地
神奈川県川崎市川崎区中島3-3-1
(川崎市立川崎高等学校)
- ▶ 連絡先
TEL 044-244-4981
FAX 044-211-8295
E-mail kkazu90@yahoo.co.jp
- ▶ 取組開始年月
平成23年3月～